

SSI ニュースレター

2022 年度第 1 号

1. 2022 年度第 1 回理事会について

去る 6 月 4 日 (土) に 2022 年度第 1 回理事会がオンラインで開催されました。

入会者 (正会員 7 名, 学生会員 2 名), 2022 年度事業計画と予算, 若手旅費支援(1 名), 若手研究助成(5 名), 表彰(4 部門), 選挙管理委員会の設置等について審議可決しました。

2. 2022 年度社員総会について

同日 2022 年度定時社員総会がオンラインで開催され, 2021 年度事業報告・決算報告・監査報告, 2022 年度事業計画・予算が承認されました。

また, 須藤修氏(中央大学・前会長)ならびに橋元良明氏(東京女子大学・元会長)の名誉会員が承認されました。

なお, 事業計画と予算案につきましては, 巻末に資料として掲示いたします。

3. 今年度の研究部会新設・継続申請は 8 月

今年度も研究部会の新設・継続事業を行います。研究部会とは, 複数の機関に所属する会員 3 名以上が集まれば, 既存の定例研究会や支部活動とは別に自由に組織いただけるもので, 1 年間の活動に対して学会から最大 5 万円の支給金が支払われます。

申請要綱などは 8 月にアナウンスされます。みなさまの研究活動にぜひご活用ください。

4. 2022 年度学会大会について

9 月 2 日 (金)・3 日 (土) に東北大学川内キャンパスで 2022 年度 SSI 学会大会をハイフレックス方式で開催する予定です。大会では「自由論題報告」「連携報告」「ワークショップ」の募集もごございますので, 下記の学会大会ウェブサイトからお申し込みください。[2022 年 社会情報学会(SSI) 学会大会] <https://ssi2022.award-con.com/>

5. 2021 年度若手研究助成の受給者による研究成果の報告

2021 年度若手研究助成制度の受給者のうち, 研究が終了した 3 名の会員の研究成果報告をご紹介します。

衛藤彬史会員

「共助交通の運営における望ましい情報通信技術およびサービスの機能と要件」

住民主体で運営する送迎サービス(「NPO 法人こやだいら(徳島県美馬市木屋平地区)」および「NPO 法人チョロギ村(京都府亀岡市宮前町神前地区)」)を対象に、立ち上げ支援を通じた参与観察および関係者への聞き取り調査を実施した。成果は社会情報学会での大会報告および論文投稿を予定している。

安本真也会員

「災害のコミュニケーション論：首都直下地震に関する防災啓発番組の送り手分析」

本研究では、防災に関するキャンペーン放送(ドラマ『パラレル東京』)の送り手分析ならびに内容分析を行い、平時の防災に関する番組における課題を明確化することを目的として、制作者に対してインタビュー調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のために調査が行えなかった。そのため、計画を方針転換し、調査対象を修正することとした。

防災啓発番組の送り手に対する調査の代替として、ドラマ『パラレル東京』の基となっている、首都直下地震の被害想定に関するインタビュー調査を行った。特に、これまでの歴史的な経緯に関する調査を行った。具体的な対象者は、国土庁防災局の震災対策課で首都直下地震対策大綱策定に携わった方ならびに気象庁で地震観測や首都直下地震に関連する委員会に参加していた方、計 2 名に対して行った。内容としては、現在の首都直下地震対策として策定された被害想定という情報が、歴史的にどのように成立してきたのか、歴史的な経緯について、文献調査では足りない点を明らかにした。結果、これまでの首都直下地震対策は、実際にはほとんどが「公助」の視点のみで行われていたことが明らかとなった。つまり、この被害想定情報は、対住民で「意識啓発」「防災行動」に資するように、位置づけられているが、その実態について把握はされておらず、「住民の震災対策」を促進する試みが不足している経緯が明らかとなった。

この結果をふまえて、実際に放送された防災に関するキャンペーン放送の効果分析の結果について、今年度中に社会情報学会に論文を投稿する予定である。

正木誠子会員

「テレビニュースに対する批判態度の規定因に関する実証的研究」

本研究ではテレビニュースに対する「批判」に着目し、不快感やいやな気持ちといったネガティブな感情を内面に抱くことを「批判態度」、その気持ちを何らかの形で発信することを「批判行動」と定義する。そのうえで、政治的有効性感覚や政治的関心、革新的な社会的意識がテレビニュースに対する批判行動「意図」に与える影響と、テレビニュースに対する批判態度と批判行動意図の関係について検討する。20~60 代の男女

300 名を対象としたオンライン調査を実施し、定量データを分析した。

まず、因子分析によってテレビニュースに対する批判行動を「メディア発信」「コミュニケーション」の二つに分類した。さらに重回帰分析を用いた媒介分析を行ったところ、「メディア発信」行動意図については政治的有効性感覚と政治的関心が有意な正の効果が、「コミュニケーション」行動意図については政治的関心と革新的な社会意識が有意な正の効果が確認できた。また、テレビニュースに対する批判態度と批判行動意図の関係については、政治的有効性感覚と「メディア発信」行動意図の関係のみ、テレビニュースに対する批判態度によって媒介されていたが、ソベル検定の結果、有意な間接効果は認められなかった。

以上の成果をまとめたものを、今年度中に「社会情報学」に投稿する予定である。

一般社団法人社会情報学会
総務委員会

以下・巻末資料

2021 年度事業報告	pp.4-11
2022 年度事業計画	pp.12-14
2021 年度収支報告（一般会計）	p.15
2021 年度収支報告（特別会計）	p.16
2022 年度予算案（一般会計）	p.17
2022 年度予算案（特別会計）	p.18

2021 年度事業報告

1. 学会大会

- 日程： 9 月 11 日(土)、12 日(日)
- 開催校：大妻女子大学（全面オンライン開催）
- 大会テーマ：AI/DX 時代の資本主義と市民社会のパーспекティブ
- 基調講演「AI・ポストコロナ時代の資本主義」（9 月 11 日、13 時～14 時、Zoom および YouTube Live で無料公開セッション）
 - 講演者：水野和夫（法政大学）
 - 司会：正村俊之（大妻女子大学）
 - 参加者：60 アクセス
- シンポジウム「もうそれだけの人類——Post-COVID-19 後の市民社会と DX /AI を現代文学から読み解く」（9 月 11 日、14 時 15 分～17 時 15 分）
 - 講演：野崎まど（作家）
 - パネリスト：松本早野香（大妻女子大学） 濱松若葉（津田塾大学大学院）
 - 司会者：柴田邦臣（津田塾大学）
 - 参加者：135 アクセス
- 自由論題報告 7 セッション（27 報告）
- 連携報告 1 セッション
- ワークショップ 6 セッション

2. 研究会等開催（日付順）

(2-1) 2021 年度社員総会シンポジウム [定例研究会（理論部門）を兼ねる]

- テーマ：AI・COVID-19 時代のシティズンシップ
 - 日時：6 月 12 日(土) 15:00～18:00
 - 開催方式：オンライン(Zoom)を使って実施
 - プログラムおよび登壇者：
 - 趣旨説明 柴田邦臣（津田塾大学准教授） 15:00～15:20
 - 基調講演 坂本 旬（法政大学教授） 15:20～16:05
 - 関 治之（内閣府大臣官房 政府 CIO 補佐官） 16:05～16:50
 - 休憩 16:50～17:00
 - コメント 伊藤 守（早稲田大学教授） 17:00～17:10
 - ディスカッション 17:10～18:00
- 参加者：90 超アクセス

(2-2) 2021 年度定例研究会 (実証・政策部門)

- テーマ：SDGs と島嶼社会情報学
- 開催形式：ハイフレックス (島間をネットでつないでマルチ会場からの Zoom 配信)
- 開催日：2021 年 11 月 13 日 (土) 13:00~17:30
総合司会 河又貴洋
13:00 開会挨拶 木村忠正
13:10 趣旨説明 河又貴洋
13:20 基調講演：「SDGs で変わる経済と新たな暮らし」
河口真理子 (立教大学特任教授) @ 壱岐
14:40 パネルディスカッション：
「島嶼からの SDGs 達成のための情報共有・発信」
パネリスト：
 - ・ 対馬から：川口幹子 ((一社) 対馬里山繋ぎ塾 代表理事)
 - ・ 壱岐から：篠原一生 (壱岐市 SDGs 未来課)
 - ・ SSI から：金山智子 (情報科学芸術大学院大学)
 - ・ 基調講演者：河口真理子 (立教大学)コーディネータ：河又貴洋
17:20 閉会挨拶 櫻井成一朗
- 備考：九州支部との共催開催
- 参加者：36 アクセス

(2-3) 2021 年度定例研究会

- 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」(MDASH) 認定制度ワークショップ
 - 2021 年 12 月 11 日 (土) 15 時 30 分~17 時 30 分 (Zoom オンライン開催)
 - 木谷慎一 (文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐) 「AI 戦略の動きと MDASH 認定制度等について」
 - 植木優夫 (長崎大学情報データ科学部教授) 「長崎大学における数理・AI・データサイエンス教育の取り組み」
 - 山口和範 (立教大学経営学部学部長・教授) 「建学の精神に基づいたデータサイエンス教育—立教大学の事例より—」
 - 参加者：29 名
- ※なお、年度当初計画では、「最新研究手法についてのセミナー」を行う予定だったが、社員の希望もあり、本ワークショップに変更した。

(2-4) 2021 年度定例研究会 (数理部門)

- 第 28 回社会情報システム学シンポジウムを兼ねて開催
- 2022 年 1 月 27 日 (木) ~28 日 (金) (Zoom オンライン開催)
- 基調講演テーマ「社会シミュレーション」(村田忠彦 (関西大)、倉橋節也 (筑波))
- 一般セッション発表 15 件
- 聴講申込 49 件

(2-5) 2021 年度定例研究会 (実証・政策部門)

- 中国四国支部研究会と兼ねて開催 (Zoom オンライン開催)
- <モビリティ>と島嶼部・地域社会から構想する社会情報学
- 2022 年 2 月 12 日 (土) 13:30~18:00
 - 基調講演:「危機の時代における観光と情報」井出明 (金沢大学)
 - トークセッション:「<モビリティ>と情報の共有地化から見えてくる島嶼部・地域社会」
 - ◇ パネリスト:
 - 額賀順子 (NPO 法人男木島図書館理事長) 他
 - 小野正人 (KAMOMEYA (株式会社かもめや) 代表取締役社長)
 - 西村美樹 (香川大学研究員)
 - ◇ 指定コメンテーター
 - 河又貴洋 (長崎県立大学シーボルト校)
 - 参加者: 69 名

(2-6) 修士論文報告会 (若手研究支援部門)

- 日本メディア学会 (2022 年 1 月日本マス・コミュニケーション学会から改称) との共催
- 2022 年 3 月 26 日 (土) 13:00~17:30 (Zoom オンライン開催)
- 報告者: 16 名 (7 大学院)
- 報告フォーマット: 大学院に提出した修士論文のアブストラクト、あるいは口頭試問のレジюмеなどを用いて、研究の概要を報告の上 (=15 分)、参加者との質疑応答および建設的な意見交換 (=15 分)。
- 今後修論研究をもとにした学会発表等を行う際、既発表 (二重発表) と見なされないようにするため、本企画はあくまで修士論文の「報告会」として位置づけ、原則として修士論文のタイトルのままで報告。
- 両学会の会員との交流を兼ねた企画として、報告セッション終了後、博士課程座談会も開催した。

- 3トラックに分かれて実施。各トラック 50 名程度の参加者、3トラック全体では 100 のユニーク参加者数。

※なお、年度当初計画では、「若手企画（公募研究会）COVID-19 と情報格差」を行う予定だったが、研究活動委員会で改めて議論し、継続的に次世代の社会情報学を担う研究者を支援する試みとして、修士論文発表会を企画し実施した。

3. 機関誌

和文誌『社会情報学』を 4 号（第 9 巻 3 号、第 10 巻 1 号、第 10 巻 2 号、第 10 巻 3 号）を発行した。英文誌『Journal of Socio-Informatics』を 1 号（Vol.14, No.1）を発行した。

4. 表彰

以下の各賞を授与した。

学会大会貢献賞 2021 年社会情報学会(SSI) 学会大会実行委員会

(代表：大妻女子大学 正村俊之委員長)

優秀文献賞 河島 茂生

『未来技術の倫理：人工知能・ロボットサイボーグ』 勁草書房

優秀論文賞 金山 智子（情報科学芸術大学院大学）

災後・災間におけるコミュニティ放送による記憶の継承（『社会情報学』第 9 巻第 2 号）

論文奨励賞 塚常 健太（東京都立大学）

父親・母親同士の友人グループへの参加条件：サポート・ネットワーク論と社会関係資本論の文脈から（『社会情報学』第 9 巻第 2 号）

大学院学位論文賞 梅谷 凌平（立正大学）

「アップストリーム互惠行動のメカニズムに関する研究」（修士論文）

研究発表優秀賞 山口 達男（明治大学） 現代社会におけるニヒリズムとしての「さとり」

章 立（島根大学） シェアリングエコノミーを活用した地方の公共交通課題の解決とその課題 -京丹後市の事例調査を通じて-

新進研究賞 塚常 健太（東京都立大学）

5. 若手支援・研究支援

本年度は研究部会制度が新設され、審議の結果、下記部会を新設した。

デジタル社会とウェルビーイング研究部会（主査 齋藤長行 東京国際工科専門職大学）

6. 総会

2021 年 6 月 12 日（土）に社員総会をオンライン形式で開催し、各種報告のほか、以下の付議事項を審議した。

付議事項	結果
第1号議案：2020年度事業報告の承認に関する件	承認
第2号議案：2020年度収支決算報告の承認に関する件	承認
第3号議案：理事及び監事任期満了に伴う改選の件	承認
第4号議案：2021年度事業計画の承認に関する件	承認
第5号議案：2021年度収支予算の承認に関する件	承認

7. 理事会

第1回理事会 6月12日 理事14名、監事2名、オブザーバー2名が出席

第2回理事会 9月11日 理事12名、監事2名、オブザーバー2名が出席

第3回理事会 12月11日 理事13名、監事1名、オブザーバー1名が出席

第4回理事会 3月19日 理事12名、監事2名、オブザーバー2名が出席

8. 委員会

本学会が目的とする事業を達成するため下記委員会において、学会大会、シンポジウム、研究会等の開催、機関誌の発行、表彰、規則の改定、他機関との連携、社会情報に関する情報発信、その他について検討した。

総務委員会（岡田勇委員長） 年7回開催（オンライン4回、メール審議3回）

研究活動委員会（木村忠正委員長） 年4回開催、大会企画委員会を年2回開催

編集委員会（北村順生委員長） 年3回開催（オンライン）

表彰委員会（岩井淳委員長） 年7回開催（オンライン5回、メール審議2回）

9. 支部

<東北支部（嶋崎支部長）>

令和3年度支部総会&社会情報学会(SSI)東北支部・日本設備管理学会(SOPE)東北支部
合同研究発表会

日時：令和4年（2022年）3月5日（土）13時30分～17時00分（予定）

場所：カレッジプラザ(秋田市中通2丁目1-51 明德館ビル2階)

特別講演：新しい価値の創造について～航空機システムの電動化を例に～

(榊純一,秋田大学・秋田県立大学電動化システム共同研究センター長)その他

発表件数10件、参加者約40名

<関東支部（山本佳世子支部長）>

関東支部では、3月10日（木）14:30-18:00にオンライン（ZOOM）により研究発表会・研究会を開催いたしました。研究発表会の参加者は18名（うち学会員は13名）で、4件の研究発表（うち会員は3件、非会員のうち1件は）がありました。オンラインでの開催であっ

たせいか、全国から発表者、参加者がおり、とても充実した研究成果の発表、議論が行われました。また、研究会の参加者は 12 名（うち学会員は 11 名）で、秋山祐樹氏（東京都市大学准教授）に「前橋市のスマートシティの取り組み」と題するご講演をしていただきました。こちらにも全国からの参加者がおり、質疑応答ではたいへん活発な議論が行われました。

< 中部支部（小川明子支部長） >

第 12 回 社会情報学会中部支部研究会開催

(2021.12.8 @ナゴヤイノベーションズガレージ/オンライン)

(第 7 回 芸術科学会中部支部研究会 第 10 回 情報文化学会中部支部研究会と共催)

発表 17 組

< 関西支部（北村順生支部長） >

「社会システムと情報技術研究ウィーク in ルスツ 2022」

2022 年 3 月 9 日（水）～12 日（土）

複数団体との共同開催

< 中国・四国支部（中俣保志支部長） >

中国・四国支部 2021 年度第 1 回研究発表会

日 時：2021 年 12 月 18 日(土) 13:00～17:40

場 所：島根大学(松江キャンパス) 法文学部棟 2 階多目的室(207 室)およびオンライン

共催：島根大学

(発表者：基調講演 1 件・発表 10 件 参加アクセス数：最大 40 名)

中国・四国支部 2021 年度第 2 回研究発表会

日 時：2022 年 2 月 12 日(土) 9:00～12:00

場 所：Zoom オンライン開催（香川短期大学より配信）

(発表者：発表 8 件 参加アクセス数：最大 23 名)

研究企画委員定例研究会（実証・政策部門）＋中国・四国支部地域社会情報学研究会
合同企画「島嶼社会情報学」研究会 2021

テーマ： <モビリティ>と島嶼部・地域社会から構想する社会情報学

日 時 2022 年 2 月 12 日（土） 13:30～18:00

場 所 Zoom オンライン開催（香川短期大学より配信）

(参加アクセス数：69 名)

<九州・沖縄支部 (河又貴洋支部長) >

学会大会 (オンライン/ホスト校: 大妻女子大学) での WS6 九州・沖縄支部企画・運営

2021 年 9 月 12 日 (日) 14:15~16:15

テーマ: 『情報通信白書』(R3 版) 特集「デジタルが支える暮らしと経済」を読む

~より良き生活のための DX 再考~

(参加アクセス数: 32 名)

定例研究会 (実証・政策部門) +九州・沖縄支部地域社会情報学研究会

合同企画「島嶼社会情報学」研究会 2021

テーマ: SDGs と島嶼社会情報学

~持続可能な社会構築のための情報学を島から考える~

日 時 2021 年 11 月 13 日 (土) 13:00~17:30

場 所 壱岐みらい創りサイトフリーウィルスタジオ

(〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 1092-5)

対馬市交流センター (〒817-0021 長崎県対馬市巖原町今屋敷 661 番地 3)

(参加アクセス数: 36 名)

九州・沖縄支部第 6 回 ICT 経済研究会

日 時 2021 年 12 月 7 日 (火) 13:00~17:30

場 所 九大伊都キャンパスイーストゾーン EE-211 教室

(参加者 21 名、内会員 6 名)

九州・沖縄支部 ICT 経済研究会リサーチ・ワークショップ共催

日 時 2022 年 2 月 16 日 (水) 14:00~16:30

場 所 九州大学伊都キャンパス経済学部棟 (イースト 2 号館) 211 教室

(参加者 23 名、内会員 7 名)

10. 広報活動

学会ホームページ (Facebook を含む) の様々な更新および会員メーリングリストを通じたメール配信を行った。2021 年 6 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの配信メールは 61 通。

ホームページの更新はトップページの Information や論文誌情報の更新の他、学会としての表彰情報や各支部・委員会に関連する情報の更新を行った。なお、業者委託を含む学会 HP の刷新は次年度事業とすることとなった。

学会ニュースレターの発行

No.1: 2021 年 6 月 16 日、No.2: 9 月 17 日、No.3: 12 月 18 日、No.4: 3 月 23 日

1 1. 選挙

今年度は実施せず。

1 2. 会員の現況

	2020年度末現在	2021年度末現在	増減
正会員	480	495	+15
学生会員	69	86	+17
名誉会員	8	8	0
団体・賛助会員	4	4	0

以上

2022 年度事業計画

[目的]

社会情報学とその応用についての研究成果の公表、知識の交換、内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、社会情報学の進歩と普及をはかり、学術の振興と社会の発展に寄与することを目的とする。

[事業]

上記の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 一 学会大会、シンポジウム、講演会並びに研究会等の開催
- 二 機関誌、研究報告書、その他の刊行物の発行
- 三 その他必要と認められる事業

[個別の事業]

1. 学会大会

日時： 2022 年 9 月 2 日（金）、3 日（土）

開催校：東北大学川内キャンパス（開催形式は未定）

実行委員長：坂田邦子先生（東北大学）

※今年度は「土日」ではなく「金土」開催ですのでご注意ください

2. 社員総会シンポジウム

テーマ：社会情報と情報メディア ～図書館情報学を架橋に～（仮）

日程：2022 年 6 月 25 日(土)

開催形式：オンライン (Zoom)

※情報メディア学会との共催、日本図書館情報学会の後援予定

※社員総会は別日程(6 月 4 日)となります

3. 機関誌（編集委員会：北村順生委員長）

和文誌『社会情報学』を、年 3 回（11 巻 1 号：2022 年 6 月、11 巻 2 号：2022 年 12 月、11 巻 3 号：2023 年 3 月）発行する。英文誌『Journal of Socio-Informatics』を年 1 回（Vol.15 No.1：2022 年 9 月）発行する。

4. 委員会活動

<研究活動委員会：木村忠正委員長>

2021 年度までと同様、理論部門、実証・政策部門、数理部門、若手研究支援部門の 4 部

門体制のもと、定例研究会、講演会・シンポジウム、修論報告会などの活動を展開していく予定である。また、研究活動においては、SSI 各支部、他学術組織との連携、交流も積極的に模索し、学会員の研究に資することはもとより、若手研究者に活動の機会を提供し、本学会への新たな研究者の参加を促す活動を展開したい。

<表彰委員会：岩井淳委員長>

2021 年度と同様に各種学会賞の表彰審査と表彰式の運営を進めて参ります。なお、2021 年度には表彰規則の見直しも行っており、これに基づき、2022 年度には新設された社会情報学貢献賞の審査を開始する予定です。

<若手支援委員会：櫻井成一郎委員長>

本年度も昨年に引き続き若手研究助成を行うと共に、若手のための育志賞その他の該当する推薦応募の機会があれば、継続していく。また若手支援策については継続して検討していく。

<広報ネットワーク委員会：服部哲委員長>

今年度は学会サイトの刷新に向けて検討する予定です。学会サイトに大会 HP を取り込むことも検討します。

※ 国際委員会（櫻井成一郎委員長）と渉外委員会（関谷直也委員長）は 2023 年度から統合し、渉外国際委員会となるため、本年度は移行期として合同で活動する。

5. 支部活動

<北海道支部：高田洋支部長> 研究会開催を検討する。

<東北支部：嶋崎真仁支部長> 令和 4 年度支部総会兼日本設備管理学会(SOPE)東北支部との合同研究発表会を令和 5 年 3 月に秋田市で開催予定。

<関東支部：山本佳世子支部長> 昨年と同様に研究発表会、研究会を開催する。

<中部支部：小川明子支部長> 第 13 回中部支部研究会を開催する。

<関西支部：北村順生支部長> 例年同様の研究会開催を検討する。

<九州・沖縄支部：河又貴洋支部長>

九州・沖縄地区における学会会員の研究の発表の場を促進し、相互の交流を図るとともに、

地区における社会情報活動を推進・支援することを目的に地方自治体等地域の団体等の協力関係の下で研究会を開催する。

- (1) 学会大会（開催校：東北大学／ハイブリッド開催）でのワークショップ企画・運営（2022 年 9 月 2～3 日）：テーマ：『情報通信白書』から読む社会情報学（仮）
- (2) 「地域社会情報学」研究会【島嶼編】の開催（2022 年、時期未定・場所候補：五島列島：五島市＋新上五島町＋小値賀町）テーマ：ワーケーションと島嶼社会情報学（仮題）〔中国・四国支部との共同企画〕
- (3) 「ICT 経済研究会」第 7 回の開催（2022 年 11 月下旬、於九州大学伊都キャンパス）、主宰：篠崎彰彦（九州大学）（InfoCom 情報経済研究会との共同企画、九州大学において開催）
- (4) 支部総会＋若手研究会の開催（2023 年 2 月中旬、於九州大学伊都キャンパス）

6. 総会・理事会・委員会

2022 年 6 月 4 日(土)に定時社員総会を開催し、2021 年度決算、2022 年度予算、他の議案について審議する。理事会は年 4 回以上開催する。委員会を随時開催し、学会大会、シンポジウム、研究会等の開催、機関誌の発行、社会情報に関する情報発信、調査研究、提言作成、その他について検討する。

7. 選挙

2023 年度に改選予定の評議員選挙、理事・監事選挙を実施する。そのため選挙管理委員会を設置する。

以上

一般社団法人社会情報学会 2021 年度 一般会計決算書

自 令和 2 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日 (単位: 円)

大科目	中科目	小科目	決算額	予算金額	増減金額	備考
I 収入の部						
1 会費収入						
	正会員		4,009,000	4,000,000	9,000	
	正会員(減額)		58,000	0	58,000	
	学生会員		37,000	0	37,000	
	団体会員		200,000	200,000	0	
	賛助会員		0	0	0	
	過年度会費		595,000	350,000	245,000	
2 事業収入	学会大会余剰金			0	0	
3 雑収入	受取利息		104	0	104	
	著作権収入		94,109	80,000	14,109	
	その他雑収入		229,980	0	229,980	
当期収入合計 A			5,223,193	4,630,000	593,193	
II 支出の部						
1 事業費						
	和文学会誌発行費		491,150	1,000,000	-508,850	年4回発行、学会誌XML化費用
	英文学会誌発行費		108,900	100,000	8,900	年1回発行、翻訳
	学会誌査読料		395,328	400,000	-4,672	和文誌、英文誌査読料
	会員名簿作成費		0	0	0	
	研究部会費		50,000	0	50,000	1部会
	委員会運営費		293,950	550,000	-256,050	
	研究活動委員会		101,300	400,000	-298,700	謝金、旅費、研究会アルバイト
	学会誌編集委員会		0	0	0	
	総務委員会		0	0	0	
	表彰委員会		192,650	150,000	42,650	学会賞副賞、審査謝金
	若手支援委員会		0	0	0	
	国際委員会		0	0	0	
	広報ネットワーク委員会		0	0	0	
	支部助成費		109,766	76,924	32,842	関東支部、中部支部、関西支部、中国四国支部
	関連学会費		75,000	100,000	-25,000	横幹連合、社会学系コンソーシアム他
	学会大会補助費		700,000	700,000	0	
	ホームページ刷新費		0	800,000	-800,000	
	シンポジウム開催費		100,000	150,000	-50,000	社会情報システム学シンポジウム共催金他
	事業費合計		2,324,094	3,876,924	-1,552,830	
2 管理費						
	会議費、慶弔費		8,066	10,000	-1,934	会場費他
	旅費交通費		692	200,000	-199,308	理事会、総会交通費
	通信費		105,179	150,000	-44,821	サーバー、NTT、切手、メール便
	消耗品費		11,098	10,000	1,098	封筒、用紙、のし袋他
	業務委託費		2,237,941	2,360,000	-122,059	精方会計士、勝美印刷(事務局)、アトラス
	支払手数料		22,715	30,000	-7,285	振込手数料
	選挙費用		0	0	0	
	法人税等・租税公課		80,450	100,000	-19,550	都税(均等割)、法人登記費用、印紙税
	新聞図書費		8,383	10,000	-1,617	学術の動向購読料
	総会費用		22,274	50,000	-27,726	謝金、弁当代、アルバイト代
	管理費合計		2,496,798	2,920,000	-423,202	
3 特別勘定繰入			0	0	0	
4 予備費	予備費支出		0	0	0	
当期支出合計 B			4,820,892	6,796,924	-1,976,032	
当期収支差額 C=A-B			402,301	-2,166,924	2,569,225	
前期繰越収支差額 D			19,992,123	19,992,123	0	
次期繰越収支差額 C+D			20,394,424	17,825,199	2,569,225	

一般社団法人社会情報学会 2021 年度 特別会計決算書

自 令和 2 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日 (単位 : 円)

大科目	中科目	決算額	予算金額	増減金額	備考
I 収入の部					
1 雑収入					
	特別会計繰入	0	0	0	
	受取利息	15	0	15	
当期収入合計 A		15	0	15	
II 支出の部					
1 事業費					
	大会支援	0	0	0	
	研究助成制度	0	800,000	-800,000	
	事業費合計	0	800,000	-800,000	
2 管理費				0	
	振込手数料	0	6,000	-6,000	
	管理費合計	0	6,000	-6,000	
当期支出合計 B		0	806,000	-806,000	
当期収支差額 C = A - B		15	-806,000	806,015	
前期繰越収支差額 D		1,750,651	1,750,651	0	
次期繰越収支差額 C + D		1,750,666	944,651	806,015	

一般社団法人社会情報学会 2022 年度予算 (一般会計)

I 収入の部		2022年度予算	増減金額	2021年度決算
1 会費収入				
	正会員	4,000,000	-9,000	4,009,000
	正会員 (減額)	150,000	92,000	58,000
	学生会員	50,000	13,000	37,000
	団体会員	200,000	0	200,000
	過年度分	300,000	-295,000	595,000
2 事業収入				
	学会大会余剰金	0	0	0
	研究部会余剰金	0	0	0
3 雑収入				
	受取利息	0	-104	104
	著作権収入	90,000	-4,109	94,109
	その他雑収入	0	-229,980	229,980
当期収入合計		4,790,000	-433,193	5,223,193
II 支出の部		2022年度予算	増減金額	2021年度決算
1 事業費				
	和文学会誌発行費	600,000	108,850	491,150
	英文学会誌発行費	100,000	-8,900	108,900
	学会誌査読料	400,000	4,672	395,328
	学会大会補助費	1,500,000	800,000	700,000
	シンポジウム開催費	100,000	0	100,000
	研究部会費	400,000	350,000	50,000
	常設委員会費	1,550,000	1,256,050	293,950
	研究活動委員会	500,000	398,700	101,300
	広報ネットワーク委員会	800,000	800,000	0
	表彰委員会	250,000	57,350	192,650
	支部助成費	255,000	145,234	109,766
	北海道支部	50,000	50,000	0
	関東支部	30,000	234	29,766
	中部支部	25,000	15,000	10,000
	関西支部	50,000	30,000	20,000
	中国四国支部	50,000	0	50,000
	九州沖縄支部	50,000	50,000	0
	関連学会費	100,000	25,000	75,000
	特別会計へ支出	309,334	309,334	0
	事業費合計	5,314,334	2,680,906	2,324,094
2 管理費				
	会議費	10,000	1,934	8,066
	旅費交通費	300,000	299,308	692
	通信費	150,000	44,821	105,179
	消耗品費	10,000	-1,098	11,098
	業務委託費	1,740,000	-497,941	2,237,941
	編集作業委託	240,000	-508,000	748,000
	事務作業委託	1,250,000	-17,200	1,267,200
	経理作業委託	250,000	27,259	222,741
	支払手数料	30,000	7,285	22,715
	選挙費用	450,000	450,000	0
	法人税・租税公課等	100,000	19,550	80,450
	新聞図書費	10,000	1,617	8,383
	総会費用	50,000	27,726	22,274
	管理費合計	2,850,000	353,202	2,496,798
当期支出合計		8,164,334	3,034,108	4,820,892
		2022年度予算	増減金額	2021年度決算
当期収支差額		-3,374,334	-3,776,635	402,301
前期繰越収支差額		20,394,424	402,301	19,992,123
次期繰越収支差額		17,020,090	-3,374,334	20,394,424

一般社団法人社会情報学会 2022 年度予算 (特別会計)

SSI 特別会計					
I 収入の部			2022年度予算	増減金額	2021年度決算
1 雑収入					
	受取利息		0	-15	15
	一般会計から算入		309,334	309,334	0
当期収入合計			309,334	309,319	15
II 支出の部			2022年度予算	増減金額	2021年度決算
1 事業費					
	海外旅費支援		400,000	400,000	0
	大会旅費支援		50,000	50,000	0
	研究助成制度		1,600,000	1,600,000	0
	事業費合計		2,050,000	2,050,000	0
2 管理費					
	振込手数料		10,000	10,000	0
	管理費合計		10,000	10,000	0
当期支出合計			2,060,000	2,060,000	0
			2021年度予算	増減金額	2021年度決算
当期収支差額			-1,750,666	-1,750,681	15
前期繰越収支差額			1,750,666	15	1,750,651
次期繰越収支差額			0	-1,750,666	1,750,666